

倉田議員

農業振興施策について

問 水田農業活性化事業は、福井県が創設した制度で、営農組織や認定農業者が生産設備等を購入する際、県が経費の1/3を、市が1/6を助成し、これまで多くの営農組織等が利用してきた。平成24年度申請分から県の助成率の1/3は変わらないが、勝山市の助成率は1/6から1/25に下がっている。どのような判断の基で助成率を下げたのか。また平成25年度当初予算において、市の助成率を1/6に戻すことを考えないのか。

答 県の補助事業である「水田農業活性化事業」は、平成23年度に「明日の地域農業を支える担い手条件整備事業」から移行したもので、事業の変更点は、採択要件であった市町の補助率1/6以上がなくなった。勝山市においては、23年度は22年度施策を準用して、市の補助率を1/6で実施し、また、24年度からは一般的な市の補助率1/25としたが、新たに市単独の事業を創設し、新規に集落営農に取り組むものについては、市の補助率を1/6としている。

いじめ問題について

問 ①教育委員会では、いじめについてどのように認識しているのか。

② 8月23日の福井新聞に、福井大学大学院の森透教授の「いじめ減らすには」と題する記事があった。森教授が述べておられる教員の子どもに対する日頃の接し方について、教育委員会と先生方が話し合うべきだと思いが考えを伺う。

答 各学校においては、児童生徒へのアンケート・教育相談活動・細かな声かけを行うと共に、保護者とのコミュニケーションを密にし、いじめの「早期発見・早期対応」に努めている。また小中学校・市内高校の生徒指導主事、警察、愛護センター、保護司会代表等関係機関の代表者が出席する生徒指導委員会を開催し、情報を共有化することによって、いじめの未然防止と早期発見に役立てている。



ソバ

北川議員

認知症対策について

問 高齢化に伴って、認知症が急増している。現在、認知症の高齢者は305万人に達し、65歳以上の10人に1人が患っている計算になる。13年後の平成37年には、今年の1.5倍に増加する見通しという。当市においても高齢化が進行する中、認知症も増えると思われるが、当市の取り組みを伺う。

① 認知症予防や認知症サポートなどの取り組み  
② グループホームやデイサービスの進捗

答 ① 65歳以上の方に3年に1回、健康自立度調査を行い、その調査結果により「脳いきいき教室」を開催するなど認知症予防に取り組んでいる。また認知症を理解していただくため、「認知症サポーター養成講座」や「地域いきいきサポーター養成講座」を開催すると共に、認知症高齢者を介護している方を支援する「介護マーク」の配布や普及啓発を行っている。  
② 認知症対応型グループホームは、各中学校圏域に3カ所整備されており、認知症対応型のデイサービスについては、現在南部中学校区に1カ所あり、今年度中に中部中学校区に1カ所整備する。

通学路の安全対策について

問 登下校中の子ども達を襲った交通事故を受け、文科省は公立小学校に、通学路の緊急合同総点検を実施し、安全点検・安全対策を講じるよう依頼したと聞いている。そこで、当市において実施された緊急合同総点検について伺う。

① 緊急合同総点検の結果  
② 今後の通学路安全点検の継続

答 ① 点検の結果を受け、問題箇所について、関係者で協議を行い、すぐに対応できることについては改善を行った。ただ工事を伴うなど難しい箇所については、今後改善努力を行うと共に、地域の方々へのご協力をお願いする。  
② 各学校では年度当初に通学路の安全点検を行っているが、今後必要に応じ、関係機関との合同点検も考えていく。



通学路点検

その他の質問  
・コンビニにおける証明書等の交付について  
・農業委員会委員選挙について